

# 季報

## 二松學舎大学附属図書館 Quarterly Report

LEARNING COMMONS

- P2 館長の2年間でふりかえって 土屋 茂
- P3 「書物をめぐる想像力」を想像する力 松本健太郎
- P4 新入生にお薦めの本 手賀裕輔／張佩茹
- P5 ようこそ！ラーニング・コモンズへ
- P6～7 東京漱石散歩 MAP
- P8 本学教職員著書紹介

# No.99

2017(平成29)年3月

---

---

# 館長の2年間でふりかえって

附属図書館長 土屋 茂  
国際政治経済学部 教授

---

---

私は図書館が好きである。学生の頃より図書館で必要な本や資料を見つけ、疑問を解明することに喜びを得ていた。常に図書館を利用する側の立場にあった。

図書館長になったということは、利用する側から利用していただく側に立場が変わったことを意味している。大学において、今まで図書委員等を経験したことはなく、何も知らずに館長になることを承諾してしまった。2年間無事に何とかやってこれたのは、図書館の職員や丸善雄松堂スタッフの協力のおかげである。

さて、館長の仕事は何をやる事であろうか。学校法人二松学舎組織規程第5条の4に「図書館長の職務は、学長の命を受け、図書館の責任者として、館務を統括する」とあるが、具体的な内容は良くわからない。責任だけはあるが、人事権・財政権はなさそうである。そこで何か他の規定はないかと調べると、学校法人二松学舎事務分掌規程第4条に図書課に関する事務内容の規定が1号から13号まで定められており、館長はその責任を負うことになっている。この規定から館長の仕事内容が具体的に把握できそうである。さらに二松学舎大学附属図書館規程第3条第3項に館長の仕事に関することが非常に簡単に書かれており、同規程第4条・第5条には図書館の仕事に関する定めがある。同規程第6条に図書館の運営に関する事項を審議するための図書委員会設置に関する規定がある。どうやらこの図書委員会が図書館運営に関して重要な位置を占めているようである。二松学舎大学図書委員会細則によると、館長は委員長となって、学部・研究科から選出された委員で構成される委員会を開催し、定められた予

算の使い方、開館日等図書館運営に関する事項を審議し、方針を定め、執行することになっている。ちなみにこの委員会は2年間で17回開催されている。館長のやるべき事が何とか理解できそうである。

このほか、館長は二松学舎大学資料展示室運営委員会の委員長となり、大学が保管している貴重な資料の展示や資料の収集を行う仕事もある。この仕事を通して、柏図書館に「水木かおる記念文庫」・「水木かおるコーナー」の存在を知り、見学して昔手に入れることのできなかった資料を手に取り、学生時代の事を思い出した。水木先生が本学の卒業生であることや奥様から毎年多額の寄付を受けていることを知った。また横溝正史旧蔵資料運営委員会の存在も知り、館長はその委員会の委員長として資料の管理責任を負っている。このような事を確認しながら館長の仕事を始めた。

日常の業務としては様々な書類の決裁をしている。量的に多いのは購入図書に関する決裁である。数日図書館に行かないとかなりの書類がたまり、判を押す忍耐力が必要となる。したがって毎日館長室に行くことが望ましい。さらに柏図書館にも行くことになる。このほか、館長職に伴う各種委員会にも出席しなくてはならない。

この2年間なんとかやってきたが、変わらぬ思いは、図書館利用者のために環境を充実させようということである。色々と不便のある図書館であるが、何とか改善をしたいと思っている。

---

---

# 「書物をめぐる想像力」を想像する力

文学部 国文学科 准教授 松本健太郎

---

---

昨年2月に他界したウンベルト・エーコは、ながらく記号学者として名を馳せただけでなく、中世の、北イタリアにある修道院を舞台として、『薔薇の名前』(Il Nome della Rosa)と題する小説を執筆した。これはジャン＝ジャック・アノー監督によって映画化されているので、ぜひ皆さんにもご覧いただきたいが、始末うす暗い雰囲気なたたえた修道院の内部で、ある書物をめぐって連続殺人事件が発生し、それを主人公である少年アドソと、その師であるバスカヴィルのウィリアムが解決しようと試みるのである。注目してみたいのは、原作者エーコがその修道院の奥座敷に、写本室(スクリプトリウム)と文書庫(螺旋型塔内図書館)を配したことである。

本作品は、現代のそれとは異なる「書物」への想像力をかきたてる。14世紀という時代設定なので、むろんヨハネス・グーテンベルクが発明した活版印刷術よりもだいぶ前の話ということになる。映画版をつうじて垣間見られるように、そこでは大勢の絵師や翻訳僧がスクリプトリウムで写本制作に従事している(あらゆる活字がプリンターから容易にうちだされる昨今とは、雲泥の差である)。また、修道院の長老であるホルヘによって、神や教会権力の権威や絶対性を揺るがしかねない書物は検閲を受け、迷路のような図書館の内奥へと隠蔽されている(あらゆる情報にネットをつうじてアクセスできる昨今とは、雲泥の差である)。そのような本をめぐる環境を描出することで、『薔薇の名前』は現代とはまったく違った「知」をめぐる文脈を提示している——そしてその錯綜したありようを「迷宮」の形で象徴していると思われるのが螺旋型塔内図書館なのである。

時代が異なれば、本の位置づけも異なる。おおくの論者が言及するように、グーテンベルク以前には、私たちが今日イメージするような「読者」も「著者」も——それどころか著者の権利を保護する制度としての「著作権」も——存在しえなかったといわれるが、これをふまえると、映画版で序盤に殺害された写本絵師とは、写本に風刺的な要素を創作的に付加した作者的存在であったといえるし、やはり殺害された翻訳僧とは、自らの好奇心にしたがって書物を個人的な空間のなかで黙読した近代的読者であったと理解することができる。ようするに『薔薇の名前』では、登場するにはいささか早すぎた「著者」と「読者」の姿が描かれ、彼らが中世の閉鎖的環境のなかで抹殺される過程が表象されるのだ。

比べてみると、私たちは自由に読むことができるし、自由に書くことができる。じっさい紙の本のみならず、(kindleを利用するなどして)電子の本を読むことができる。また、私たちはある物語を書籍のみならず、映画(Huluでみるそれを含む)をつうじて受容することもできる。かつて一部の特権階級の占有物であった本は、さまざまな形態で読まれ、かつ、そこからさまざまな表現文化が派生しつつあるのだ。

もちろん、いつの時代でも本は、あるいは、無数のそれが所蔵された図書館は、人々の想像力をはぐくむ源泉であったろう。それが多メディア社会の進展にともなってどう変化しつつあるのか。図書館で本と格闘しつつも、メタ的もしくは俯瞰的に視点を移して、ふとそんなことを想像してみても良いかもしれない。



## 新入生にお薦めの本

(価格はすべて税込、2017/2 現在)

### 国際政治経済学部 専任講師 手賀裕輔

- ①『**トランプ**』 著者：マイケル・クラニッシュ、マーク・フィッシャー／野中香方子〔ほか〕訳  
発行所：文藝春秋 2016年 2,268円

2017年に生きる我々は、好むと好まざるとに関わらず、この人物に向き合わねばなりません。いかにして泡沫候補に過ぎなかった「不動産王」が全米で大旋風を巻き起こすまでに至ったのか。本書は、彼の幼少時代にまで遡りその人生を丹念に調べ上げた労作です。

- ②『**ブラッドランド：ヒトラーとスターリン大虐殺の真実**』上・下

著者：ティモシー・スナイダー／布施由紀子訳 発行所：筑摩書房 2015年 上:3,024円 下:3,240円

本書は、1933年から45年にドイツとソ連の間に挟まれた「流血地帯」で1400万名もの民間人が殺害された事実を明らかにした書物です。この大量殺戮の原因は、ソ連のスターリンとドイツのヒトラーという独裁者の決定でした。個人の決断が国際政治を左右し、途方も無い大惨事を生むこともあるのです。

- ③『**蒲生邸事件**』 著者：宮部みゆき  
発行所：文藝春秋（文春文庫）2000年 994円

それでは歴史は、全て人間の決断によって作られるのでしょうか。本書の主人公である孝史は、大学受験前夜にホテル火災に遭ったことでタイムスリップしてしまいます。辿り着いた先は昭和11年の2・26事件直前の東京でした。ここで、孝史は歴史を変えるべく、奮闘努力するのですが…。SF小説としてのみならず、歴史とは何かを考える上でも面白い本です。

### 文学部 中国文学科 専任講師 張佩茹

- ①『**大地の子**』全4巻 著者：山崎豊子  
発行所：文藝春秋（文春文庫）1994年 各648円

この小説は、中国残留孤児の陸一心の数奇な人生を描いた作品である。ジャンルはフィクションではあるが、フィクションというより、ノンフィクションに近いリアルさで書きあがっている。というのも、この大作は3年間にも及ぶ長期かつ綿密な取材活動を経て、様々な事実に基いて再構成したものである。大きな時代の変化に翻弄される個人の運命が克明に描かれている。現代中国や日中関係を理解するためにも、一読する価値のある作品である。

- ②『**貝と羊の中国人**』 著者：加藤 徹  
発行所：新潮社（新潮新書）2006年 778円

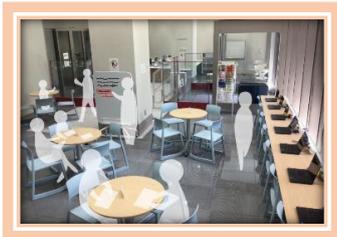
「中国人とは何ぞや」という疑問を執筆の出発点とする本書はまず、今から三千年前の殷周革命に中国人の祖型を求め、続いて言語、人口、歴史など、様々な切り口から中国や中国人の本質に迫る。スケールの大きい話にきつと諸君の想像力が引き立てられるだろう。

- ③『**コンビニ人間**』 著者：村田沙耶香  
発行所：文藝春秋 2016年 1,404円

第155回芥川龍之介賞の受賞作であるこの小説は、今なお話題作である。作者の村田氏が本学附属柏高等学校出身というご縁もあり、昨年(2016年)の年末に開催された人文学会第114回大会では村田氏の講演会を実現できた。『コンビニ人間』を新入生の諸君におすすめしたい理由は、コンビニという身近な場所をテーマにしたこのちょっと不思議なストーリーに、ハッとさせられることがきつとある、と考えるからだ。「私は人間である以上にコンビニ店員なんです。」と宣言する主人公は、一体どういう人物なのか。「普通」とは何かについて、深く考えさせてくれる作品である。

**アクティブ・ラーニング**という言葉を知っていますか？ それはディスカッションやディベート、グループ・ワークなどを通じて、先生や友達と刺激し合いながら問題を解決する力を磨く **主体的な学び** のことです。九段2号館の1・2Fにある **ラーニング・コモンズ** は、そんな学びの場としてぜひぜひ使ってほしいスペースです！

「とはいっても、いったい何ができるの？」というあなたのために、今回はざっくりとラーコモの紹介をします！



## 学習スペース

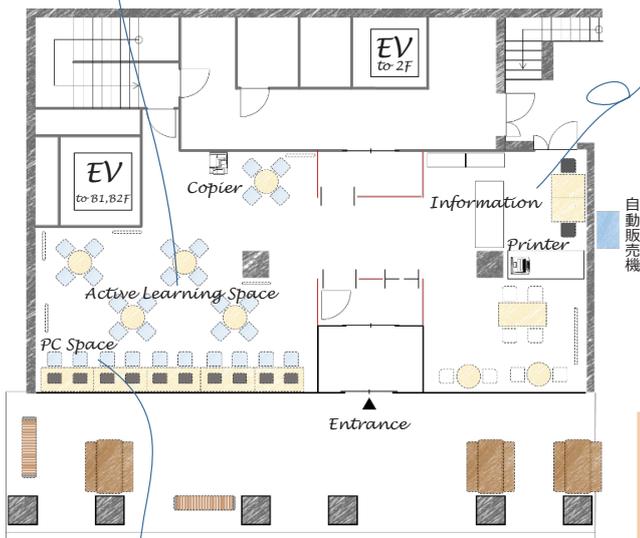
学習スペースでは、PCやホワイトボード等を利用できます。声を出していいので、話し合いが必要なグループワークにおすすめです。



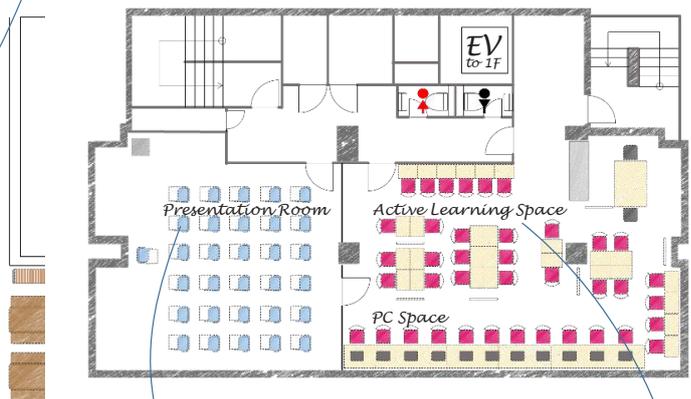
## 受付

受付では、備品貸出、プレゼンテーションルーム利用申請、問い合わせ等を受け付けています。お気軽にお声掛けください。

1F



2F



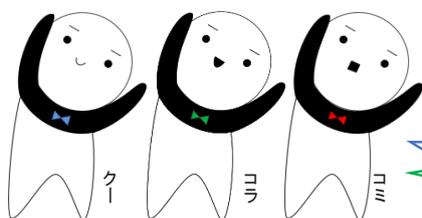
## プレゼンテーションルーム

様々なプレゼン機器を利用してサークルやゼミ等のプレゼン活動ができます。受付で利用申請をおこなってください。



## 情報検索スペース

常設 PC (1 階 10 台・2 階 11 台) は自由に使えます。情報検索や文書・資料作成等にお使いください。A4 片面モノクロ印刷可。20 枚まで。また、貸出 PC (10 台) を受付で貸し出しています (要学生証。印刷不可)。



みなさん、こんにちは！  
ボクたちは、みんなのアクティブ・ラーニングを見守るラーニング・コモンズの守護神、ラーコモ三兄弟だよ！  
ラーニング・コモンズのこと、知ってもらえたかな？ぜひ一度、来てみてね！





# 東京漱石散歩

池袋駅

1



7



2



8



3



4



飯田橋駅

新宿駅

5



14



6



15



①漱石の眠る雑司ヶ谷霊園（豊島区南池袋 4-25-1）  
肘掛椅子の形は、知人の建築士・鈴木禎次の手による。

②漱石生誕の地碑（新宿区喜久井町 1）  
慶応 3（1867）年、五男三女の末っ子として誕生した。

③漱石公園（新宿区早稲田南町 7）  
この地に「漱石山房」があり、多くの門人が集った。

④漱石終焉の地碑（漱石公園内）  
大正 5（1916）年、『明暗』執筆中に亡くなった。

⑤夏目坂（新宿区喜久井町）  
名主だった漱石の父・直勝が名付けた。

⑥太宗寺の地蔵菩薩（新宿区新宿 2-9-2）  
自伝的小説『道草』で、よくよじ登ったと書かれている。

⑦17歳の時に住んだ新福寺（文京区白山 3-1-23）  
橋本左五郎とこの寺の 2 階に間借りし、自炊生活を送る。

⑧帝国大学卒業後に住んだ法蔵院（文京区小石川 3-5-4）  
東京高等師範学校の英語教師であった漱石が下宿。

⑨夏目漱石旧居跡の碑（文京区向丘 2-20-7）  
『吾輩は猫である』が生まれた旧居跡。通称「猫の家」。

⑩源覚寺（文京区小石川 2-23-14）  
『こころ』で先生が通学路として境内を通る。



**参考文献**  
『漱石2時間ウォーキング』中央公論新社 2003年刊  
『東京文学散歩』メイツ出版 2010年刊

9



水道橋駅

11



日暮里駅

13



12



御茶ノ水駅

上野駅

18



秋葉原駅

10



16



17



神田駅

19



東京駅

20



⑪ 団子坂 (文京区千駄木 2~3)  
かつて菊人形の名所で、三四郎が美禰子たちと出かけた。

⑫ 根津神社 (文京区根津 1-28-9)  
漱石が腰を下ろしたとされる「文豪憩いの石」がある。

⑬ 三四郎池 (文京区本郷 7-3-1)  
三四郎と美禰子がここで出会ったことから命名された。

⑭ 近代科学資料館 (新宿区神楽坂 1-3)  
「坊っちゃん」が卒業した東京物理学校校舎の復元。

⑮ 漱石が漢学を学んだ二松学舎 (千代田区三番町 6-16)  
明治 14 (1881) 年 11 月に、第 2 級第 3 課を卒業した。

⑯ 漱石の通った錦華小学校 (千代田区猿樂町 1-1-1)  
現お茶の水小学校で、門脇に石碑が建っている。

⑰ 漱石が足を運んだ松栄亭 (千代田区神田淡路町 2-8)  
「洋風かき揚げ」は漱石が何度も注文した好物。

⑱ ニコライ堂 (千代田区神田駿河台 4-1-3)  
『それから』で、代助が復活祭について語っている。

⑲ 漱石の越後屋碑 (中央区日本橋室町 1-4-1 三越屋上)  
日本橋三越の前身越後屋呉服店は、作品に度々登場する。

⑳ 漱石名作の舞台碑 (中央区日本橋 1-4-1)  
『三四郎』『ころ』で、路地にある寄席や料理屋が登場。

# 本学教職員著書紹介

## 『都心で学ぼう！ 3 高校生のための 国際政治経済』

二松学舎大学国際政治経済学部 編  
(戎光祥出版、2016年11月10日発行)  
A5版 139ページ 1,400円+税  
ISBN: 978 - 4 - 86403 - 226 - 1



本書は、2012年刊行の『都心で学ぼう！国際政治経済』から始まった国際政治経済学部編「都心で学ぼう」シリーズの第三弾です（ちなみに二作目は『都心で学ぼう2 体験的国際政治経済』）。入試や大学の個別相談会で高校生や受験生から学部では何を学ぶのですか、という質問をしばしば受けることがあります。「国際政治経済」という名称は学部名としては少々長く、入学したら何を学ぶのが学部名からはイメージしにくいという理由からなのでしょう。そこで九段南さんと二松学君という二人の高校生に登場してもらって、本学部の1年次に学ぶ必修科目（「政治」「経済」「法学」「国際関係」）の一部を学んでもらうことにしました。一言でいえば、本書の中心となるコンセプトは学部紹介です。

ただそれに終始するのではなく意識的に「今」を取り入れてもいます。18歳選挙権・選挙制度・大学新卒者の雇用状況・トランプ現象・米中関係・核軍縮・難民問題・パナマ文書・税の公平性といった現在の日本の諸問題や国際情勢を意図的に扱っています。学部の紹介をしながら同時に、今の日本・世界の一端も知ってほしいという思いから本書は編まれたわけです。タイトルには「高校生のための」と謳っていますが、大学生や社会人も読者として想定しています。写真や図表を多用し、ほとんどが対話形式で書かれていますので、読みやすいのではないのでしょうか。学生諸君にも知識を確認するという意味で読んでもらえたらと考えています。

この本のユニークな点は最後に「大学周辺ガイド」として、九段下駅から1号館キャンパスまでの道のり、大学周辺の名所案内が日本語・英語の両表記で書かれているところです。本書を手にしながらか実際にこのルートを歩いてみて下さい。キャンパス周辺の名所・旧跡、ならびにキャンパスのロケーションの良さを再認識するとともに、英語力がアップすること間違いなしです。  
(国際政治経済学部 教授 押野洋)

### 編集後記

「季報」99号をお届けします。  
原稿を執筆いただいた土屋先生・松本先生、お薦め本を紹介下さった手賀先生・張先生、著書紹介を下された押野先生に感謝申し上げます。  
さて、だんだん温かくなる季節です。今号に載っているマップを参考にして、散歩を試みるのも良いかもしれません。  
(S. A)

二松学舎大学附属図書館

季報

第99号

発行日 平成29(2017)年3月1日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

電話：03-3263-6364

柏図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590

電話：04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話：03-5227-8333